

シンギュラリティを梃子に次代へ挑戦



月尾 嘉男

従来の人工知能は既存の情報から適切な回答を選択する能力であったが、生成人工知能は自身で回答を作成する能力を意味する。重要なことは、その能力が社会にもたらす影響の検討である。いま生成人工知能という外圧に直面している。この外圧への対処は日本の喫緊の重要課題である。

発生しつつある第五の変化は人間頭脳とデジタル技術が融合して高速で複雑な認知能力を獲得する時代の到来と説明している。

究極の第六の変化は人類が発明した知性が宇宙に拡散していくこととしているが、人類が直面する当面の課題は登場しはじめた第五の変化に対処することであり、その中核になる技術が生成人工知能である。

従来の人工知能は既存の情報から適切な回答を選択する能力であったが、生成人工知能は自身で回答を作成する能力を意味する。

重要なことは、その能力が社会にもたらす影響の検討である。

第一は先進諸国では就業比率が6割以上になっている三次産業での失業の大量

シンギュラリティは一般には単独という意味であるが、科学技術の分野では技術的特異点と翻訳され、ある時点まで通用していた科学法則が通用しなくなる断絶を意味する。

歴史には多数存在し、平板と見なされていた地球が球体であると判明したことや、宇宙の中心とされていた地球が無数の天体の一個にすぎないと判明したことが該当する。

しかしシンギュラリティという言葉は1980年代から情報科学の分野で使われるはじめ、人間知能と同一水準の人工知能が登場する時代を意味する用語となった。この言葉を有名にしたのはアメリカの情報学者レイ・カーツワイルで、2005年に人工知能の将

発生である。これまでも単純な情報処理はコンピュータなどの情報技術が代替してきたが、高度な判断処理も生成人工知能が代替すれば学校教育にも社会教育にも明治維新に匹敵する変革が必要になる。

それに関連する教育制度の対応も重要となる。現在の教育は現在の社会に対応できる能力の獲得が目標であるが、学校教育の修了以後に生活する社会が大幅に変化していれば不要な能力の獲得に努力することになる。一例として高度な自動翻訳が浸透すれば英語などの語学教育に多大の時間を消費することが適切かという課題が発生する。

明確な根拠は存在しないが、近代以後の日本は明治維新と80年後に発生した太平洋戦争争敗戦という巨大な外圧に直面し、それを克服して発展してきた。その敗戦から80年目が今年である。この数字に特別な意味はないにしても、今回は生成人工知能という技術の外圧に直面している。この外圧への対処は日本の喫緊の重要課題である。

つきお・よしお 1942年生まれ。東京大学工学部卒業、東京大学教授、総務省総務審議官などを経て、現在は東京大学名誉教授。